保管用
よくお読みください
保証書別途

こまわりくん（低床型六輪車いす）

KAK18-40(B) / KAK16-40(B)

取扱説明書

● 目 次 ●	頁
安全に関するご注意	1
1. 同梱部品の確認	6
2. 安全ラベル	6
3. 各部名称	7
4. お使いの前に	8
5. 使用方法	10
6. ブレーキの使用方法	14
7. 肘掛けの使用方法	15
8. 安全ベルトの使用方法	15
9. 段差乗越え方法	16
10.ガススプリング	17
11.車いすの主な乗り方	18
12.お手入れの方法	20
13.保管について	20
14.点検・保守	21
15.仕様	23
16.材料・材質一覧表	24
17.製品記録	25
18.保証とアフターサービス	26

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます（http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm）。

ご使用になる前に必ずお読みください。また、ご利用いただく際には必ず携帯していただくか、必要なときにいつでもご覧になれるところへ大切に保管してください。

KAWAMURA 株式会社カワムラサイクル

安全に関するご注意

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

※正しい取り扱いに関する必要事項をシンボルで表示しています。

⚠ 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⚠ 注 意	取り扱いを誤った場合、障害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
⊘ 禁 止	してはいけないことを示しています。
❗ 必ず守る	必ずしなければならないことを示しています。

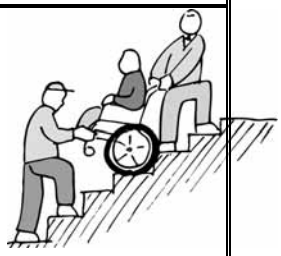
	⚠ 警 告　取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
⊘ 禁止	**●下記の方は、ご使用にならないでください。** **・ 座位の保持ができない** **・ 極度な肥満症** **・ 精神異常** **・ 金属過敏症** **・ 重度の骨粗しょう症** **・ 薬物中毒症** **・ アルコール中毒症** **・ 感染症** **・ 認知症** **●勝手に改造・分解しないでください。** 強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故の原因になりますので、絶対に改造・分解しないでください。本来の装着品を外してのご利用も改造の対象となります。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

禁止

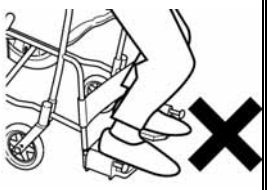
●階段などで利用者を乗せたまま車いすを持ち上げる場合、固定されているパイプを 3～4 人でしっかり支えてください。
※肘掛（アームサポート）、脚部（フットレッグサポート）、押手（手押しハンドル）を持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、車いすから外れるなど、大変危険です。



●車いすを持ち上げる際に、車いすにお座りの方の体の一部を持たないでください。

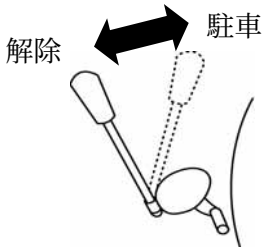
●車いすを火気に近づけないでください。
シート部が燃えたり、プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど危険です。
熱湯消毒についても同様です。

●車いすに乗り降りの際は、必ずステップ板（フットプレート）を上に跳ね上げてください。
※絶対にステップ板（フットサポート）の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。



●車いすに乗り降りの際は、必ずブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

●傾斜地では、駐車しないでください。
傾斜地では、ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。

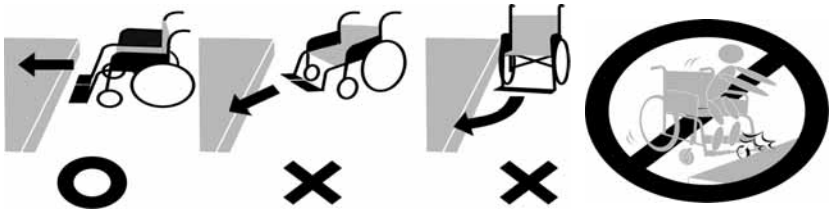


●すべりやすい床面や濡れている床面では、ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。十分に気をつけてください。

●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。
ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

●回転している車輪や可動部に手や指を差し込まないでください。ケガの原因となります。また、タイヤを持って車輪を操作しないでください。ブレーキ等で指をはさみ、大変危険です。

●発進するときや段差を乗越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗越えられなくなったり、キャスタの破損やキャスタからタイヤが外れる原因なったり、事故の原因となり大変危険です。

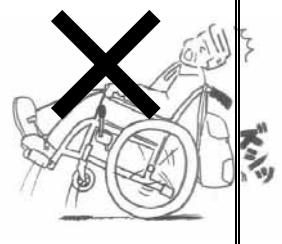


⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

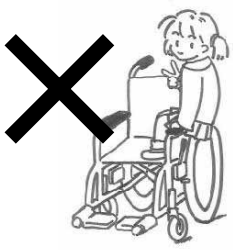
禁止

●背もたれに重いものを引っ掛けたり、ポケットに重いものを入れないでください。過度の荷物はバランスを崩し、転倒の原因となります。絶対に避けてください。

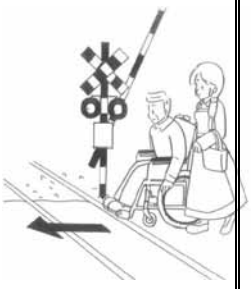


●倒れ掛かるような急激な座り方はしないでください。また、座シート部以外に腰かけないでください。
転倒または壊れてケガをする恐れがあります。

●二人乗りしないでください。
この車いすは、一人用です。破損・事故の原因となります。

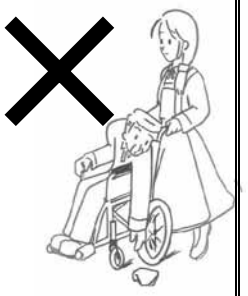


●踏み切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。



●大きな段差のある場所・階段では使用しないでください。

●段差や凹凸などのある路面等を走行するときは、体が前のめりになりすぎたり、前キャスタを浮かせすぎたりしないでください。また、車いすに乗ったまま前方の地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢をとらないでください。転落・転倒の原因となり大変危険です。



●車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。車いすが不安定になり危険です。

●傾斜地での走行は、車いすが予想外の方向に進むなど大変危険です。

●段差を乗り越える際には、勢いをつけて乗越えないでください。大変危険です。また、フレーム及びキャスタ車輪等の故障の原因となります。

必ず守る

●この車いすは、室内用に設計されています。室内でお使いいただく事を推奨いたしますが、やむを得ず道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。

●移乗の際は、介助者がしっかりと介護者を支えて行ってください。

●ご利用者の心身の状況、症状を十分考慮し、適切な介助を行ってください。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

必ず守る

●坂道の上り下りの際は、必ず介助者に支えてもらって走行してください。上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

※坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。

⚠ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●走行する際には片手で操作しないでください。傘をさしながら、片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。

●夜間、雨降りは外出をお控えください。通行者や車から発見しにくくなり、事故の原因となります。

●ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。

●急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。

●小さなお子様には使用しないでください。

●下記のようなところに車いすを放置しないでください。

- **車道に近いところ**
- **人通りのあるところ**
- **路面に段差や凹凸のあるとこと**
- **湿気の多いところ**
- **雨風の当たるところ**

●本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。

事故の原因となります。

	⚠ 注 意　取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
必ず守る	**●ブレーキの効きが強すぎたり弱すぎる場合は、すぐに使用を中止して販売店にご相談ください。** そのまま使用を続けると事故の原因となります。 **●安全ベルトは、必ず装着してください。** **●車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。最大体重を守ってください。** **●介助者は、ご利用者が車いすに安全に座れているかを確認してから操作してください。** **●車いす乗降時や移乗時には、必ず介助者が付き添ってください。** **●車いすに乗り降りの際は、必ずフットサポートを収納してください。** 絶対にフットサポートの上に乗って車いすに乗り込んだり、立ち上がらないでください。転倒の原因となります。 **●シートがやぶれた場合は、必ずシートを交換してください。また、故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破断したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。** **●肘掛け（アームサポート）を下げた状態でご使用ください。** **●座面中央部に安定した姿勢で座ってください。** **●ステップ板（フットサポート）が障害物に接触しない高さで使用してください。** **●ステップ板（フットサポート）に足をのせたまま、脚部（フットレッグサポート）を取り外ししないでください。** **●肘掛け（アームサポート）に腕を乗せたまま、肘掛け（アームサポート）を跳ね上げしないでください。** **●シート（クロス）パイプがシート（クロス）受けに収まっている事を確認してご使用ください。万が一、シート（クロス）受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。** **●車いすを投げたり落としたり、衝撃を加えないでください。フレームが歪んだり、破損の原因となります。** **●面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取り除いてください。** 取り除かないと、面ファスナーの接着力が弱くなり、事故の原因となります。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

万が一、ケガや事故が起きた際には、早急に当社へご連絡ください。
（連絡先は、裏面にございます。）

消費生活用製品安全法の改訂により、製造メーカーは被害を拡大させないためにも早急な対応が求められております。

1.同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

- 工具
- 取扱説明書（保証書はがき）

2.安全ラベル

- 取扱上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
- 安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- 安全ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。

⚠ 注 意 ケガをするおそれがあります

●可動部分を持って持ち上げないでください。
●認知症（痴呆症）の方が使用される場合は、必ず介助者が付き添い、安全を確認し、ご利用ください。
●座面が確実に固定されていることを確認してください。
●手や衣服をはさまないようにご注意ください。

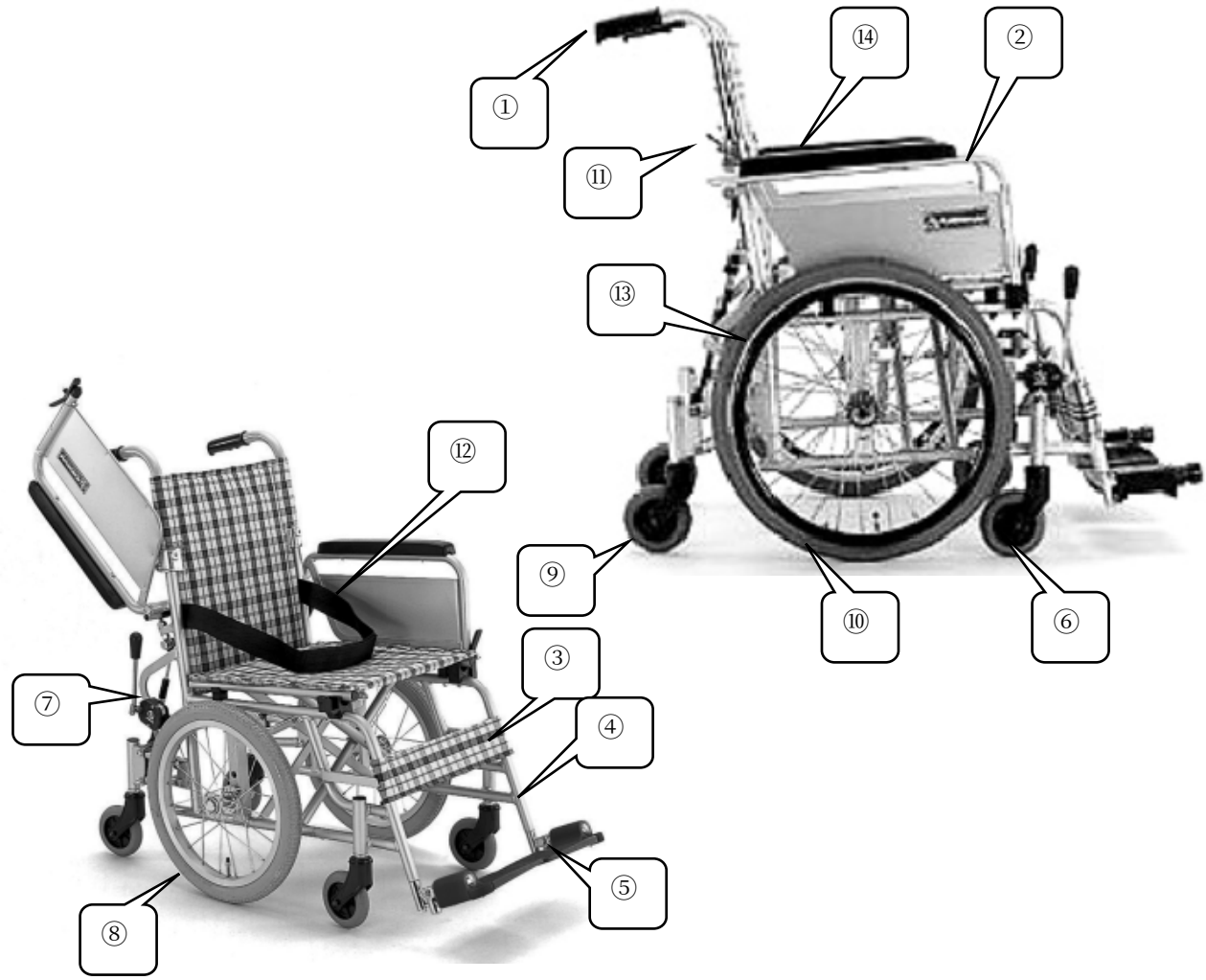
右側板（内側）

左側板（内側）

⚠ 警 告 転倒してケガをするおそれがあります

●取扱説明書はよく読み、必ず携帯してください。
●乗り降りの際には、必ずステップ板を跳ね上げて、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認してください。
●地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢を取らないでください。
●段差などを越える場合、前輪を浮かせ過ぎないでください。
●最大積載重量以上の重量で使用しないでください。
●アームサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●フットサポートが可動式の場合は固定されていることを確認してください。
●駆動輪やキャスタが外れないことを確認してください。
●座面以外に腰掛けないでください。

3.各部名称



①押手（手押しハンドルグリップ）	介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
②肘掛け（アームサポート）	移乗しやすくなるよう跳ね上げができます。（跳ね上げ式）
③足ベルト（レッグサポート）	足が後ろに落ちないように支えます。
④脚部（フットレッグサポート）	足を指示する装置です。
⑤ステップ板（フットサポート）	足を載せる板です。
⑥キャスタ（前車輪）	自在に方向転換できる小車輪です。
⑦駐車ブレーキ	車いすを駐車する時に使用します。
⑧中央車輪	駆動輪・主輪です。回転する際に軸となります。
⑨キャスタ（後車輪）	自在に方向転換できる小車輪です（転倒防止にもなります）。
⑩ハンドリム	自走するときに使います。（自走用のみ）
⑪背折れ金具	車いすを折りたたむ際、さらにコンパクトになります。
⑫安全ベルト	車いすから体がずり落ちないよう腰を固定するベルトです。
⑬ガススプリング	段差を乗り越える際に伸縮して前輪を上げます。
⑭肘当てパット	肘を載せる場所です。

4.お使いになる前に

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。
長期間使用を続けると、劣化が生じます。

★装着品の確認

- 背ベースシート、座ベースシートは、しっかりと固定されていますか？
- 背クッション、座クッションは、しっかりと取付けられていますか？
- 背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
- 肘掛け（アームサポート）は、しっかりと固定されていますか？
- クロス（座シートパイプ）は、しっかりと受けに収まっていますか？
- 脚部（フットレッグサポート）は、しっかりと取付けられていますか？
- ヒールループ（レッグサポートは、しっかりと取付けられていますか？
- ステップ板（フットサポート）は、しっかりと取付けられていますか？

★中央車輪の確認

- タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- タイヤの溝が十分残っていますか？変形していませんか？

★ブレーキの確認

- 駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
- ブレーキをかけた状態で中央車輪が回転しませんか？

★肘掛け（アームサポート）

- スムーズに（上下・跳ね上げ）作動できますか？
- しっかりと固定できますか？
- キズや亀裂等はありませんか？

★脚部（フットレッグサポート）

- スムーズにスイングアウト、脱着できますか？
- しっかりと固定できますか？
- ステップ板（フットサポート）がパタパタしていませんか？
- キズや亀裂等はありませんか？

★全体的に

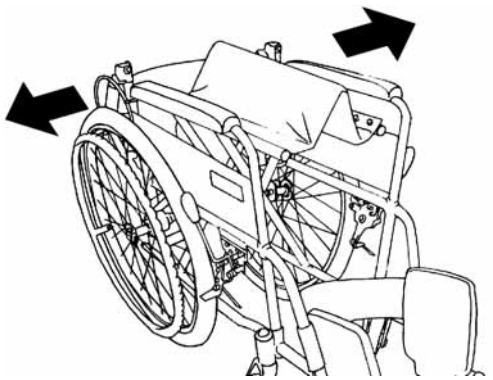
- ガタつきはありませんか？
- まっすぐに走りますか？
- 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- 背折れ金具がしっかりと固定されていますか？
- 背クッション、座クッションがしっかりと取り付けられていますか？

★介助者へ

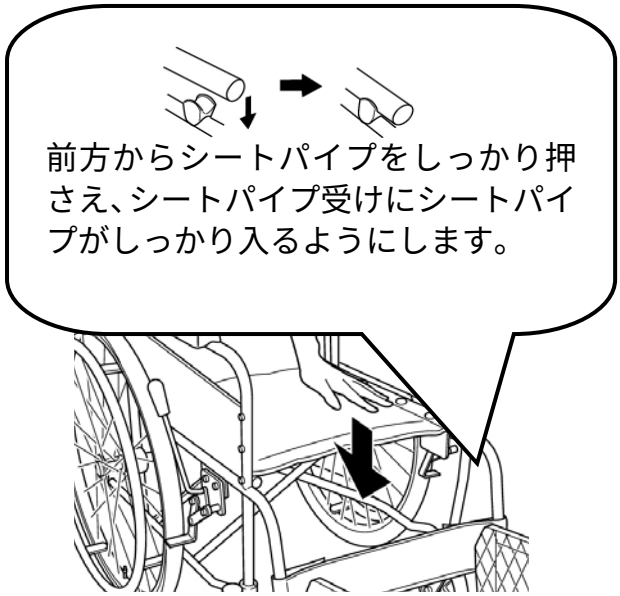
- 長期間の使用や使用頻度によっては、ガスダンパーやキャスタ車輪、フットサポート、アームサポート等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
- 次のような場所では必ず介助する人が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
    - ・急な坂道
    - ・凹凸や段差のある場所
    - ・踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
    - ・その他危険が考えられる場所
- 車いすに載って介助しないでください。
- 利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- 利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- 車いすに重い荷物を載せたり、押手に提げたりしないでください。

5.使用方法
＜車いすの拡げ方＞

①左右に拡げます。



車いすの後方に立ち、左右の肘掛け（アームサポート）を持って両側に軽く広げます。



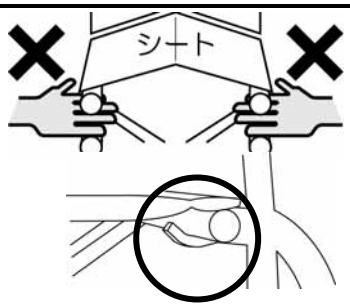
前方からシートパイプをしっかり押さえ、シートパイプ受けにシートパイプがしっかり入るようにします。

片方のフレームを持ち上げて車輪を少し地面から浮かせ、座面端のパイプ部分を上から手で押し下げます。

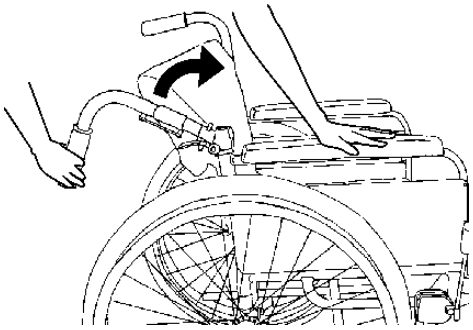
⚠注 意

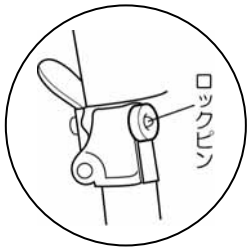
●座パイプの横や下に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

●シートパイプをシート受けに確実に入れてください。フレームが変形して、事故の原因となります。



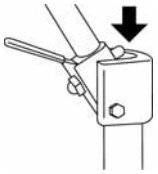
②背もたれを起こします。





ロックピンが完全にロックされている事を確認してください。

⚠注 意

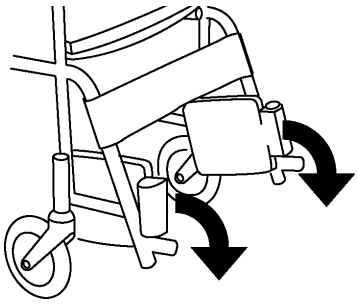


この部分に手や指をおかないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

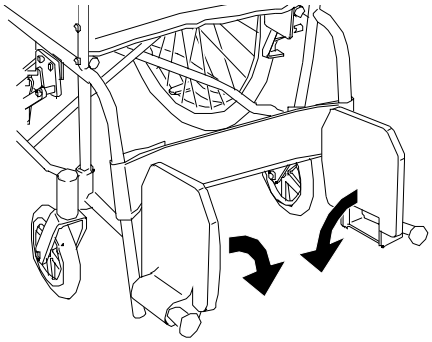
車いすの押手（手押しハンドルグリップ）部分を持ち、上方（矢印の方向）へ引き起こすように持ち上げてください。
※このとき、片側の手で車いすが動かないように支えてください。

③ステップ板（フットサポート）を取り付け、調整します。

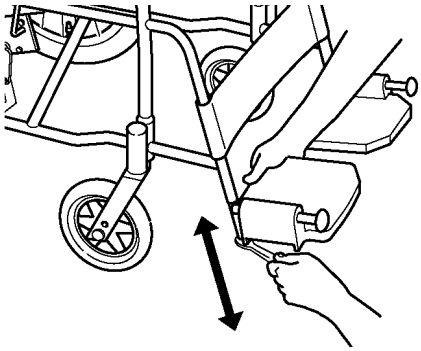
出荷時は、ステップ板（フットサポート）が外側に回転させて折りたたんでありますので、ステップポスト先端のボルトを少し緩め、内側へ回転させます。



ステップ板（フットサポート）を矢印の方向に引き出してください。



ステップ板（フットサポート）を内側に倒します。

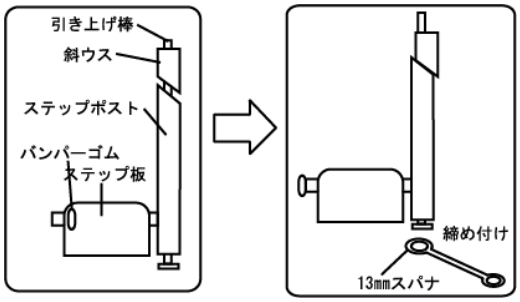


ステップ板（フットサポート）適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

⚠ 警 告

●ステップポストの高さは地面より 5 センチ以上でご使用ください。低すぎると凸凹路面や障害物にステップ板（フットサポート）があたり、転倒する恐れがあります。

●ステップセット先端六角ボルト部分をスパナでしっかりと締め付けてください。締めることにより斜めウスがズレてステップセットが固定されます。締付が弱いとステップセットが外れる恐れがあります。しっかりと固定されている事を確認してご使用ください。

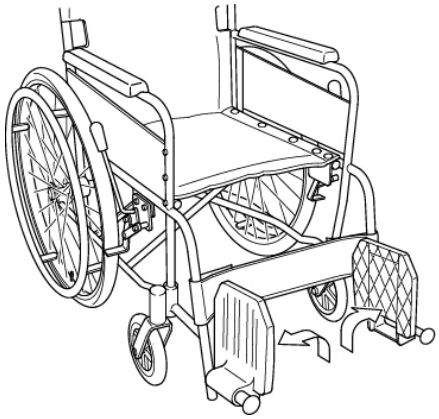


⚠警 告

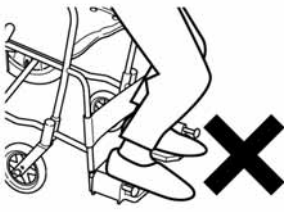
●下図①のようにステップセットを固定してください。
●車いすを折りたたむ時は下図①のようにステップ板を跳ね上げてください。下図②,③のようにステップセットを取り付けると車いすを折りたたむときに干渉し正しく折りたためないため、フレームが歪み車いすに悪影響を及ぼす場合があります。前輪キャスタに干渉しキャスタが回転しにくくなる場合があります

＜車いすのたたみ方＞

①ステップ板（フットサポート）を跳ね上げます。



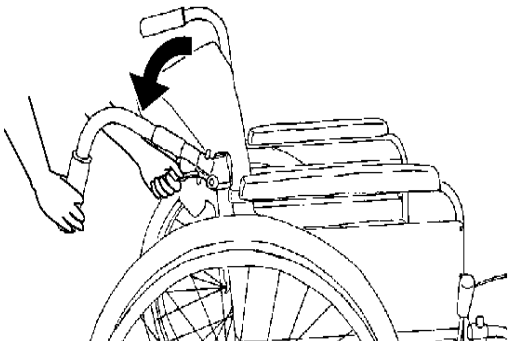
⚠警 告



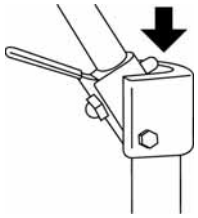
車いすから降りる際、絶対にステップ板（フットサポート）の上に乗らないで下さい。車いすごと転倒し、大変危険です

ステップ板（フットサポート）を上方へ（矢印の方向へ）跳ね上げます。
※ステップ板（フットサポート）を内側にたおした状態のままだと、折りたたみが出来ないので、ステップ板（フットサポート）が上方へ上がっていることを確認ください。

②背折れを折りたたみます。



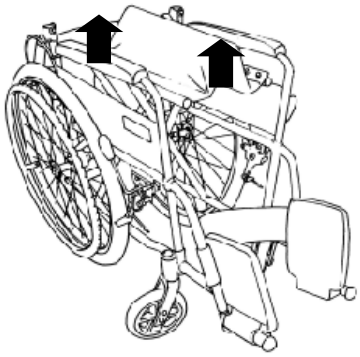
⚠注 意



この部分に手や指をおかないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

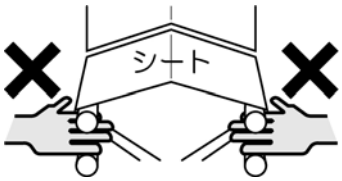
押手（手押しハンドルグリップ）を握り、一方の手で背折れ金具のレバーを後方へ引きながら押し手を倒します。

③シートを折りたたみます。



座シートの前方と後方の中央部を同時に持ち上げます。

⚠ 注 意



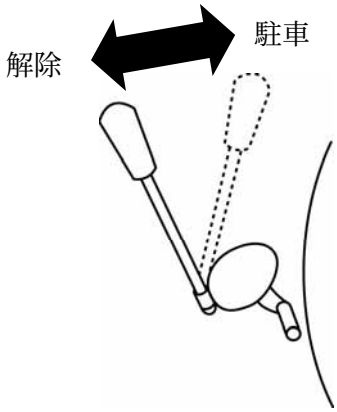
座パイプの横や下に手や指を置かないでください。挟まってケガをする恐れがあります。

折りたたむ際に、押手を持って左右から押し縮めないで下さい。フレームの破損の原因となります。

6.ブレーキの使用方法

駐車ブレーキ

車いす乗降には、必ず駐車ブレーキをかけて、車いすが固定されていることを確認してください。



ブレーキレバーを後方に引くとロックし、レバーを真上にすると解除されます。

⚠ 警 告

※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

●ブレーキの効き具合が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し販売店もしくは弊社にご相談ください。

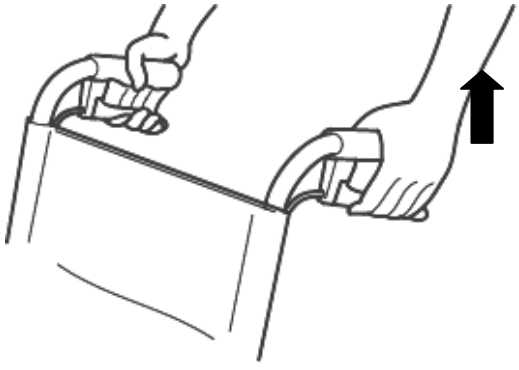
●ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損します。

●ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形･破損する恐れがあります。

●坂道や傾斜地では駐車しないでください。駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があり、大変危険です。(滑りやすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。

介助ブレーキ

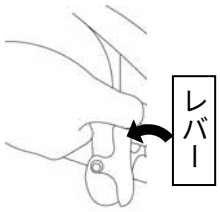
ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、離すと解除されます。(B付のみ)



走行中や下り坂での制動ブレーキとしてご使用ください。
ブレーキレバーは介助者の方が必ず両側同時にかけてください。

7.肘掛け（アームサポート）の使用方法

肘掛け（アームサポート）を跳ね上げるとベッドなどへ移乗しやすくなります。



レバーを矢印の方向につまみ、ロックを解除します。

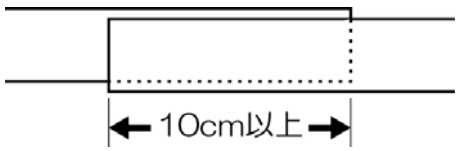
※レバーが上下回転する場合があります。その際は、レバーを正常な位置に戻してください。肘掛け（アームサポート）を固定することができません。

レバーを右図の矢印方向につまみ、肘掛け（アームサポート）を矢印の方向に跳ね上げます。
※戻す際は、「カチッ」という音がするまで降ろしてください。

⚠ 警 告

●車いす乗降時には必ず駐車ブレーキをかけ、車いすが固定されていることを確認してください。
●階段などで利用者が乗ったまま車いすを持ち上げる場合、絶対に肘掛けを持たないでください。 肘掛け（アームサポート）が抜ける恐れがあり大変危険です。

8.安全ベルトの使用方法



車いすに深く腰掛け、面ファスナーの接着部分を 10ｃｍ以上重ね合わせてしっかりととめてください。

⚠ 注 意

●シートから落ちるおそれがあるので必ず安全ベルトを使用してください。転落事故の原因となります。
●面ファスナーに糸くず･汚れなどがついたときは取り除いてください。
接着力が弱まり、事故の原因となります。

9.段差乗り越えの方法

●段差や凹凸路面では乗越えの際、中央車輪が浮いてブレーキが全く利かない状態になる場合があります。大変危険ですので、充分ご注意ください

⚠注 意

●段差や凹凸路面では乗越えの際、中央車輪が浮いてブレーキが全く利かない状態になる場合があります。大変危険ですので、充分ご注意ください。

10.ガススプリングの取り扱い上の注意

⚠注 意

●摺動部に注油は一切不要です。注油するとシールが耐久性をなくし油漏れの原因となります。
●衝撃を加えることは絶対に避けてください。油漏れ、作動不良、破損の原因になります。
●分解することは絶対に避けてください。高圧ガスが封入されていますので、分解すると非常に危険です。
●曲げ荷重の負担がかかりますと曲げ方向の剛性が少ないので取り付けの精度によりロッドが曲がり作動不良の原因となります。
●ピストンロッドおよびシリンダーに打痕をつけますとシールの寿命を縮めたり、作動不良の原因になります。
●周囲の気温があまり高いまたは低い場所でのご使用はご注意ください。-10℃～80℃の範囲内でご使用ください。
●雨や水のかかる場所、ホコリの多い場所でのご使用は避けてください。

★ガススプリングの廃棄方法

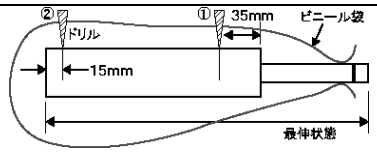
廃却する際は、次の注意を守ってください。この部品は、窒素ガスが高圧で封入してあるため、ガスを抜かずに処理すると、爆発によりケガをすることがあります。

（注意事項）

・押しつぶさない。
・切断しない。
・図以外の場所に孔を開けない。
・火に入れない。

（廃却の手順）

1.プッシュロッドを押し、最伸状態にする。
2.ビニール袋をかぶせ、その上から２～３㎜ドリルで①の孔をあけ、ガス・油を抜いたあと②の孔をあけてください。（必ず①②の手順を守ってください。）
3.ビニール袋を使用しない場合は、油や切粉が飛びますので充分ご注意ください。（この場合メガネをかけて作業してください）



左図の要領で孔をあけ、ガス抜きをしてから廃却してください。

⚠注 意

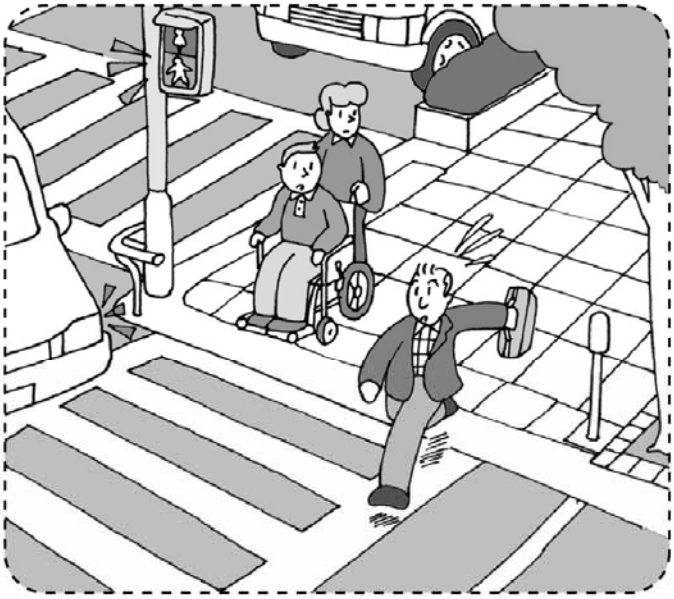
●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったらご使用を中止してください。

11.車いすの主な乗り方

⚠ 注 意

●タイヤの空気が十分入っているか確認しましょう。
●下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
●いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
●車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として取り扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、
走行を心掛けましょう。

⚠ 警 告

●車いすは、自動車と同じ乗り物ですから、定期点検が必要です。長期の使用によって劣化が生じます。異常が発生した場合は、直ちに使用を中止してください。

★移乗　車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。

介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせます。

介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へお尻を向ける。

ゆっくりと腰を下ろしてもらう。
※「いち、にのさん」と声をかけながらおたがいに協力し合いましょう。

※転倒しないように、充分な配慮が必要です。

★外出（坂道）車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“安全ベルト着用”が基本です。

＜上り坂＞
押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します

＜下り坂＞
坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。
安全ベルトを必ずご利用ください。

12.お手入れの方法

★金属部分（フレーム）

凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。
ご使用後は必ず乾燥させてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂（プラスチック）部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。
背もたれは取り外せますのでご使用後は干して乾燥させてください。ぬれたまま放置しますと、カビの原因になります。ご使用の際は必ず背シートを取り付けてください。取り外したままのご使用はたいへん危険ですので絶対におやめください。

＜汚れがひどいとき＞

- ●汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- ●しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- ●洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。

⚠ 注 意

- ●熱湯やオゾンで洗浄しないでください。故障・変質・変色の原因となります。
- ●中性洗剤を使用してください。変質・変色・傷みの原因となります。
- ●シンナーやベンジンなどの揮発性のものは使用しないでください。変質・変色・傷みの原因となります。
- ●たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。傷みの原因となります。

13.保管についてのお願い

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

⚠ 注 意

●下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。

- ・車道に近いところ
- ・人通りのあるところ
- ・坂道
- ・路面に段差や凸凹のあるところ
- ・湿気の多いところ
- ・暑い日や寒い日の戸外
- ・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
- ・雨、風のあたる場所
- ・ほこりの多い場所
- ・非常口、消火器、消火栓の前
- ・直射日光の当たる場所（車内も含む）
- ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
- ・子供がいたずらをする恐れのある場所

14.点検・保守

1 ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

★タイヤに空気は十分入っていますか？

空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。
タイヤの性質上空気は自然と減っていくので 1 ヶ月に１回は空気を入れてください。
目安として、タイヤを手で押してもやや硬い（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。
空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。
高すぎるとクッション性が悪くなります。

★タイヤの溝は十分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

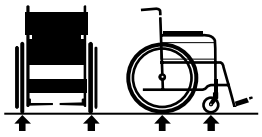
★ブレーキはしっかり効きますか？

タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理不可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？



前輪二輪と中央輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。
直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。原因となっている箇所の修理・交換を行ってください。

★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

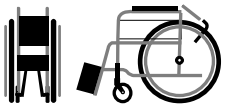
車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所などに放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐに緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

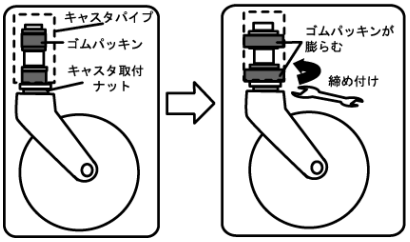
★きちんと折りたためますか？



折りたたみに異常がある場合、クロスの金具のネジの緩みや摺動部分の油切れが考えられます。ネジの締め付け、注油を行ってください。

★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。



（**出荷時には十分に締め付けてありますが、ご使用されている間に振動により緩む場合がありますので、定期的に点検してください。**）

スパナでキャスタ取付ナットを締めると、ゴムパッキンが膨らみ、キャスタが固定されます。キャスタ取付ナットをしっかりと締めてください。締付が弱いとキャスタが外れる恐れがあります。

★ハンドリムはしっかり固定されていますか？（20in のみ）

ハンドリムにガタがある場合、取り付けネジの緩みが考えられます。取付ネジをしっかりと締めてください。

★ブレーキワイヤーは切れていませんか？

ブレーキヤイヤーは切れていませんか？ブレーキが効かなかったり、事故の原因になります。安全のため、1 年に一度はワイヤーを交換してください。

★洗浄の際には、水、お湯または中性洗剤をご使用ください。

- 中性洗剤以外の洗剤を使用しないでください。
- シンナーやベンジン・アルコールなどの揮発性のものは使用しないでください。
- たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。
- オゾン消毒はしないでください。ゴム材料の収縮などの原因になります。
  変質・変色・傷み・割れの原因となります。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

⚠ 注 意

●スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
●異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して販売店へご相談ください。

15.仕　様

（in：インチ）

※記載の寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

品名・名称	標準仕様・規格			
	KAK18-40	KAK18-40B	KAK16-40	KAK16-40B
座　　幅　（mm）	400			
前座高　（mm）	430			
レッグ長さ　（mm）	370			
後座高　（mm）	400			
シート奥行　（mm）	400			
背もたれ高　（mm）	400			
肘掛け高　（mm）	230			
全高　（mm）	850			
全長　（mm）	950			
全幅　（mm）	580	600	520	540
折りたたみ時 全幅x全高x全長　（mm）	340x670x870	350x670x870	280x670x870	290x670x870
重量　（kg）	15.2	16.2	13.8	14.8
使用者最大体重	100kg　（積載物含む）			
フレーム	折りたたみ式　背折れ有り			
後輪 (駆動輪及び主輪)	18in エアーノーマル式車輪 ハンドリム波型・黒	18in エアーバンド式車輪 ハンドリム波型・黒	16in エアーノーマル式車輪	16in エアーバンド式車輪
タイヤ	18x1 $^{3}/_{8}$ エアータイヤ		16x1.50　エアータイヤ	
チューブ	18x1 $^{3}/_{8}$　英式バルブ		16x1.50　英式バルブ	
ハンドリム	18in　波型　黒色		—	
前輪（キャスタ）	4in ニューソフトキャスタパッキン式			
キャスタ車輪	4in ニューソフトキャスタ車輪			
ヨーク	4in 樹脂ヨーク　パッキン式			
背シート （バックサポート）	調整無しシート（6 色選択）			
座シート （シート）	調整無しシート（6 色選択）			
肘掛け（アームサポート）	跳ね上げ式			
肘当て	一体成型軟質樹脂			
ハンドグリップ （グリップ）	1.反射板付き　黒色			
脚部 （フットレッグサポート）	固定式			
足ベルト （レッグサポート）	標準型（6 色選択）			
ステップセット	L.　黒色			
ステップ板（フットサポート）	g.　黒色			
ステップポスト	φ16mm　前後式			
バンパーゴム	g.用　黒色			
駐車ブレーキ	A.ミニ駐車ブレーキ（前後式）			
にぎり	I 型黒色			
ガススプリング	高圧ガス噴入式/反発力 5kg/ストローク 50mm			

16.材料・材質一覧表

KAK シリーズ　　（　　）：表面処理

フレーム	フレーム	フレーム	アルミ 7000 系
		表面仕上	焼付け塗装　溶剤型塗料使用
		溶接材料	アルミ 5000 系
	クロス	フレーム	アルミ 7000 系
		表面仕上	焼付け塗装　溶剤型塗料使用
		溶接材料	アルミ 5000 系
部品	後輪	タイヤ	合成ゴム、ナイロン,ブチルゴム、スチールワイヤ
		チューブ	ブチルゴム
		リム	アルミ 6000 系(アルマイト)
		スポーク	スチール（ユニクロメッキ）
		ハブ	スチール（クロムメッキ）
		ナット	スチール（亜鉛メッキ）
		ハンドリム（自走式のみ）	ポリプロピレン,グラスファイバー
	前輪	タイヤ	天然ゴム,スチレン・ブタジレンゴム
		ホイル	ポリプロピレン
		ヨーク	ナイロン,グラスファイバー
		キャスタ軸	スチール（亜鉛メッキ）
		ベアリングオイル	グリース
	背シート 座シート 足ベルト	表地	ポリエステル(A3・A9･A10・A21・No.3・No37)
		芯	ポリ塩化ビニル
		クッション	ウレタンフォーム
		ベルクロ	オス（ナイロン）　メス（ナイロン）
		糸	ナイロン
	肘当て	クッション部	ポリウレタン
		中芯	スチール（亜鉛メッキ）
		取付ネジ	スチール（亜鉛メッキ）
	側板	側板	アルミ 3000 系またはアルミ 5000 系
		表面仕上	焼付け塗装　溶剤型塗料使用
		リベット	アルミ
	跳ね上げ金具	レバー	ナイロン,グラスファイバー
		金具本体	ナイロン,グラスファイバー
	背折れ金具	レバー	ナイロン
		金具本体	アルミ 6000 系
	ハンドグリップ	グリップ	ポリ塩化ビニル（RoHS 対応）
		反射板	ポリスチレン
		接着剤	クロロブレン
	ステップセット	ステップ板	ポリプロピレン,グラスファイバー
		ステップポスト	スチール（クロムメッキ）
		板バネ	スチール（亜鉛メッキ）
		バンパーゴム	天然ゴム
		ウス	スチール（亜鉛メッキ）
		引き上げ棒	スチール（亜鉛メッキ）
	駐車ブレーキ	レバー	ステンレス
		グリップ	天然ゴム
		本体部	ナイロン,グラスファイバー
		カバー	ポリカーボネイト
	バンド式 介助ブレーキ	カバー	スチール（電着塗装）
		シュー	合成ゴム,繊維質充填材
		ブレーキレバー	ポリプロピレン
		ブレーキレバー取付バンド	スチール（電着塗装）
		アウターワイヤ	ポリ塩化ビニル（RoHS 対応）
		インナーワイヤ	スチール（亜鉛メッキ）

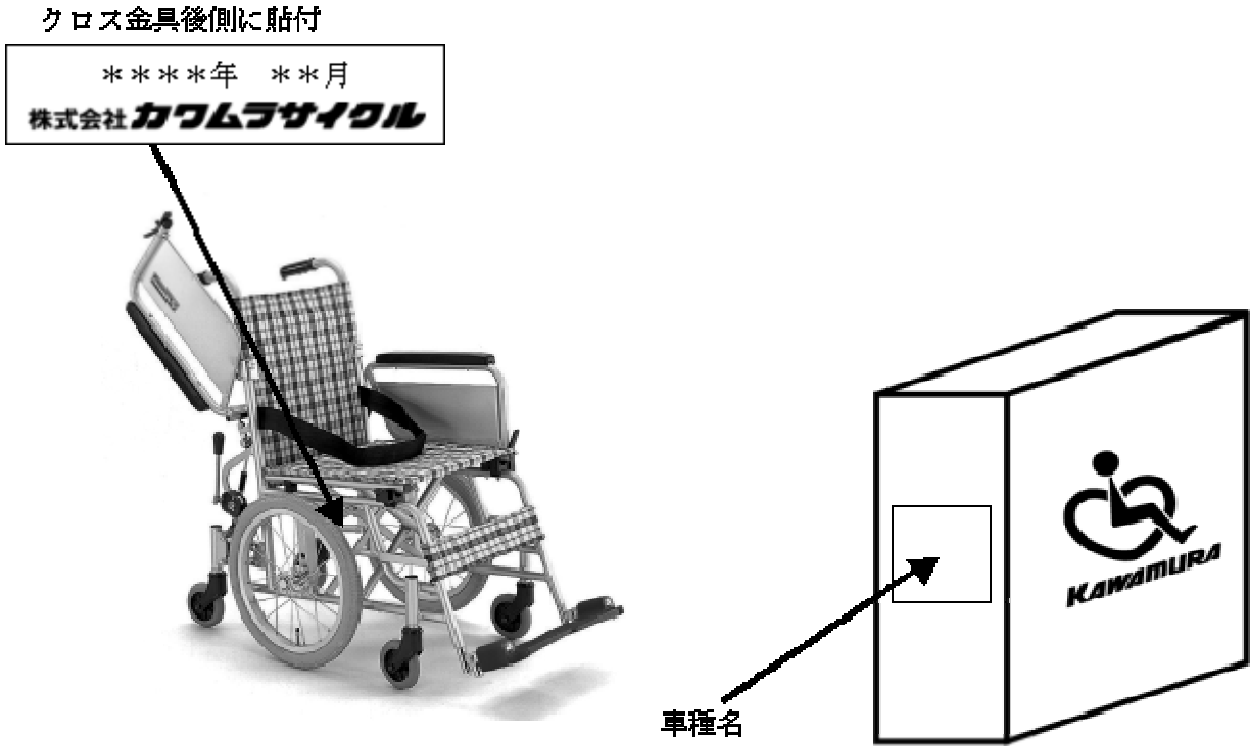
梱包材	梱包材	外箱	ダンボール
		内袋	ポリエチレン
		テープ	ポリプロピレン

１７.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造月を記録しておいてください。

車　　種	
製 造 月	年　　月

＜シール貼付位置＞



18.保証とアフターサービス

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証期間

この商品には保証書を別途添付しております。保証書は所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内に当社へご返送ください。

保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。

★保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

（a）ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
　例）タイヤの磨耗およびパンク、シート、ステップ板の破損等
（b）地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（c）お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（d）保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
（e）弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（f）一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（g）製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（h）取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（i）取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障
（j）ご購入後１ヶ月以内に登録されていない場合
（k）日本国外でご使用の場合

★消耗部品

・肘当てパッド	・ワイヤー	・バンド式介助ブレーキ本体
・前輪(車輪のみ)	・背ベースシート	・ドラム式介助ブレーキ本体
・ベアリング	・背クッション	・ふくらはぎパッド
・タイヤ	・座ベースシート	・板バネ
・チューブ	・座クッション	・ガスダンパー
・虫ゴム	・足ベルト	・メカニカルロック
・後輪(車輪のみ)	・ステップセット	

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡しください。

※一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

メ　モ

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町１-３-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒564-0044	大阪府吹田市南金田２-20-10	TEL06-6190-8488
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原１-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場　■メンテナンスセンター

本書に記載の意匠、仕様および部品は性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。

2009.1